

安心なブロック塀を目指しましょう！

平成30年に発生した大阪北部を震源とする地震（震度6弱）により、ブロック塀が倒壊し、小学生の女の子が犠牲になった事故が記憶に新しいと思います。建築基準法施工令が改訂される1981年以前に建設されたブロック塀は現在の基準外のものである可能性が高く、地震で倒壊したブロック塀も1981年以前のもので、高さ3.5mほどあったといわれています。ブロック塀等の建築に関しても、建築基準法があり、既存ブロック塀等においても構造基準を満たす必要があります！事故を未然に防ぐためにも身近にあるブロック塀は、基準を満たしているか確認しましょう！

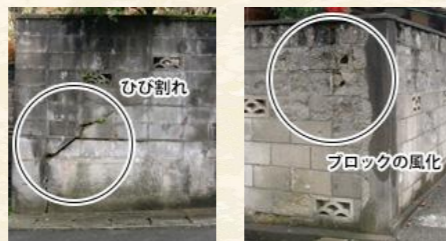
## チェックポイント

□塀が明らかに傾いていないか、触れた際にグラグラ揺れないか



小さな地震が発生した場合でも倒壊する可能性があり、危険です！また、実際にブロック塀に触れた確認する場合は、周りに人がいないか注意しましょう。

□ブロックがポロポロでないか



ブロックの表面がヒビ割れていたり、風化したりしている場合、ブロックの内部も劣化している可能性があります。内部の鉄筋は、塀の耐久性・耐震性そのものに影響します。

□高さが高すぎないか



ブロックの厚さが10cmの場合は塀の高さは2.0m以下、15cmの場合で2.2m以下です。高い塀は、強い地震の揺れ倒れやすくなります。

□透かしブロックが連続して使用されている、また多すぎる



ブロック塀は、鉄筋を立て・横とも80cm間隔以下で配筋しますが、透かしブロックは必要な鉄筋が入りません。鉄筋が入っていない塀は、強い地震の揺れで倒壊しやすく危険です！

□石垣などの上に建っていないか



石垣の上の塀は、地震などの揺れに抵抗する鉄筋が、塀下の石垣に固定されていません！そのため、少しの揺れで塀が倒れる可能性があります。

□土留めに使っていないか



ブロックでの土留めは、後ろの土の質量を支えるだけのブロックの厚さや必要な鉄筋の本数が不足し、1m以上ともなると土圧も大きくなり非常に危険です！40cmまでしか土留めとしては使ってはけません！

## 五感を刺激する空間で快適生活を！ ③聴覚編

大理石やコンクリートは、音をほとんど吸収せずにはね返すため、残音が残リ、耳障りに感じられることがあります。しかし、木材には低温・中温・高温をバランスよく吸収する働きがあるため、室内に木材を使用した場合、不快な雑音が吸収され、音がまろやかになります。これは木材が多孔質の材料であるからこそ得られる特性。目に見えないミクロの孔がそんな効果を生み出してくれています。優れた音響効果を要する劇場やコンサートホールに木材が使用される理由は、こんなところにもあるのです。

人の耳には聞こえない20,000Hz以上の「超高周波」は、自然の中の木の葉のざわめきや、虫の取りの声、水のせせらぎの音などに豊富に含まれています。この「超高周波」をシャットダウンすると生理的に不快感をもち、逆にこれを耳にすると脳波に変化が生じ、アルファー波が発生し、精神的に安定することが分かっています。「超高周波」をコンクリートは遮断してしましますが、木材は適度に通すため、精神的にもリラックス効果が期待できます。



※記載の内容は変更になる場合があります。

smilegen

【鹿児島店】鹿児島市西田2-15-12 (1F)

【南さつま店】南さつま市加世田東本町18-9

「あたりまえの家」をあなたに

☎ 0120-679-146

ムリナク イイホーム →ホームページへは、QRコードを読み取ってください

smilegen.jp

http://www.smilegen.jp



## 長期優良住宅 ～鹿児島市荒田 K様邸～



鹿児島市荒田に建築中のこちらの住宅は、建物と建物のある住宅ですが、トップライトや坪庭を設けることで、光と風がかけめぐり、穏やかな空間に！また、2階リビングをワンルームにすることで、住宅街であることを忘れられそうなくらい広々と開放的な空間となっています！さらに、この住宅は長期優良住宅の認定を取り、国土交通省「地域型住宅グリーン化事業」による補助金100万円を活用しています。



↑工事中



↑外観パース

現在は、9月の引渡しに向けて工事中です。完成見学会については、コロナウイルスの影響により開催未定となっています。が、完成した家を見たい方は、日程調整し個別にご案内できればと考えております！見学希望の方は住まいの玄まで、ご連絡ください！

## お知らせ

毎月第3日曜日 午前9時30分～9時55分にエフエム鹿児島にて放送中の「サッとサッ ササキングのサササササンデ〜」に出演させて頂いております！7月19日(日)が第2回目となりましたが、住まいの玄のここと・家づくりのこことを皆様にお伝え出来ればと思っております！7月19日の回は、棟梁の鶴本正太さんのお話を聞かせてもらいました。実際に、パーソナリティの佐々木さんやスタッフさんにも現場に来ていただき、収録をしたのですが、建築中の家をなかなか見ることがないとゆうことで話が盛り上がりました！聞き逃した方は、「radiko」というアプリのタイムフリー機能を使って聴けるそうなので、ぜひお聞きください！



次回は、8月16日(日)午前9時30分からを予定しております！

## 住まいと健康の話

### 高断熱住宅に暮らして血圧値が改善！



健康には生活習慣はもちろん、私たちを取りまく環境も深く関わっていることが分かっています。慶応義塾大学 伊香賀俊治研究室では、断熱性能の高いモデル住宅を使い、健康と住宅の関連性を調べる調査を行いました。

まずは、被験者が普段暮らしている断熱性能の低い自宅での一日の心拍数・血圧を計測。その後、断熱性能の高いモデル住宅で約一か月暮らし、その間も一日の心拍数・血圧などを計測しました。

図は心拍数と各室の温度による数値を表しており、結果、モデル住宅では家の中の温度差が緩和されたことで入浴時や起床時の心臓への負担が低下。住宅の温度環境の改善が、循環器疾患予防の助けとなることが研究から分かっています。

断熱性能を高め、家の温度環境を改善することが、循環器疾患につながる血圧上昇のリスクをおさえます！

また、血圧値改善だけでなく、高断熱住宅はぜんそくやアトピーなどの様々な症状の改善が期待出来ます。住環境を見直すだけで、病気のリスクを減らすことが出来るのです！あたたかい住まいを実現するためにはしっかりと断熱された家であることが重要です。断熱材や断熱性能が高い窓・ガラス、内窓などで断熱をすることが有効です！

### 起床時の心臓への負担や、最高血圧も低下！

